

被災状況
<p><b>死者：8,659人</b>（男性3,887人、女性4,771人、性別不明1人）</p> <p><b>負傷者：21,952人</b>、カトマンズ盆地の避難者：合計41,890人(5/9～継続)</p> <p>家屋被害：全壊501,907戸 半壊272,211戸 <span style="float: right;">(5/25)</span></p>
被災された方々の健康状態／支援ニーズ
<p>・14日から20日までのデータによると、外傷患者401名、急性呼吸器感染症142名、水系下痢症135名、血性下痢症13名、原因不明の熱120名、外来患者ケース4,861名、入院患者ケース1,080名、主要手術ケース53、マイナー手術ケース88であった(WHO, 5/22)。</p> <p><b>術後ケア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郡病院から退院した負傷患者がいる村でアウトリーチを実施し、多くの術後感染症が見つまっている。このことから、長期的な障害や合併症を予防するために、コミュニティレベルのフォローアップが必要である(WHO, 5/19)。</li> <li>・外傷リハビリテーションサブクラスタは、アウトリーチ、患者搬送、補助具を含むリハビリテーションサービスの情報を提供するためにホットラインを確立した(WHO, 5/19)。</li> </ul> <p><b>衛生管理・感染予防</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Dhading, Nuwakot, Sindhupalchok 郡から3日間で数例の下痢症のケースが報告された(WHO, 5/22)。</li> <li>・10の便検体の検査結果で、Dhading 郡からの1つにサルモネラの増殖がみられた(WHO, 5/22)。</li> <li>・Gorkha 郡のSwara 村落開発委員会から、17日に報告された発疹を伴う発熱のアウトブレイク疑いはラピッドアセスメントチームにより水痘と確かめられた。Dhading からも水痘の数例が18日に報告された(WHO, 5/19)。</li> <li>・カトマンズ盆地における主要な避難場所では水供給が地震以前のレベルに戻ったが、し尿処理や手洗い対策、廃棄物管理や排水は標準以下で、課題がある状況が続いている。</li> </ul> <p><b>女性と子どもの健康</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの適切な栄養の約700の集団カウンセリングが14郡で開催され、5,200人の母親が受けた。</li> <li>・Lalitpur では、女性の公共トイレが不足しており、多くの女性が公共トイレの利用を避けるために食料と水の消費を避けている。</li> </ul> <p><b>メンタルヘルス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/12の地震から、被災者の心理社会的サポートのニーズが増加している。</li> <li>・被害が大きかった地域の中で、Dolakha ではメンタルヘルスケアの治療へのアクセスがない。このニーズに対応するためにメンタルヘルススタッフの派遣が緊急に必要である(WHO, 5/22)。</li> <li>・サイコロジカル・ファーストエイドとカウンセリングが2,000人の被災者に提供されている</li> </ul>
被災された方々の生活状況
<p><b>食糧・水・衛生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Sindhupalchowk でのアセスメントの予備的結果で、人口の80～90%がWASH支援を必要としていることが明らかになった。</li> </ul> <p><b>生活環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・14地区141か所の村落開発委員会に258か所の避難サイトがある。</li> <li>・Sindhupalchowk では48か所のほか、10か所が開放スペースとして使用可能であると特定された。</li> </ul>

**必要な救援物資と配布状況**

- ・ シェルタークラスタは、家屋を覆うために適切であるとして、各世帯に2つの防水シートの配布を勧めている。現在までの状況は、クラスターターゲットの27%に相当する。

**生計/仕事**

- ・ 6郡(Dhading, Dolakha, Gorkha, Nuwakot, Rasuwa, Sindhupalchowk)の約286,000世帯に農業投資のための生計の援助が緊急に必要である。
- ・ Sindhupalchowk郡のIrkhucor村落開発委員会で、cash-for-work(CFW)を通じたがれき管理の試験段階が進められている

**子どもの教育**

- ・ 31地方で約28,570の教室が全壊し、12,440の教室が損害を受けた。
- ・ 43チームがDhading, Kathmandu, Kavre, Lalitpur, Nuwakotで校舎の構造調査を開始している。
- ・ 保護クラスタとの協働で109のCFSが確立され、9郡(Bhaktapur, Dhading, Gorkha, Kathmandu, Kavre, Lalitpur, Nuwakot, Sindhuli, Sindhupalchok)で、109,000人の子どもたちのために、安全に学ぶ環境と心理社会的サービスが提供されている。
- ・ KathmanduとLalitpurで、1,142人の教員が、学校に戻った時に子供たちのサポートとよりよい自身のケアを受けられるように、心理社会的オリエンテーションの17の訓練が行われている。

**復旧・復興**

- ・ SindhupalchowkのChautaraの市場地域では、がれき処理と解体の優先順位が高い。
- ・ いくつかの村落開発委員会では、人々は安全にがれきを取り除く方法の知識がないまま、家からがれきを取り除き始めている。

**保健・医療サービスの状況**

- ・ 保健人口省の報告によると、合計459の保健施設が全壊し、他691の施設が部分的に被害を受けた。被害を受けた施設の多くはプライマリーヘルスケアセンター、出産センターを含む村のヘルスポストである(WHO, 5/22)。
- ・ 女性コミュニティヘルスワーカー10人を含む合計19人のヘルスワーカーが命を落とし、56人が負傷し、2人が行方不明である(WHO, 5/19)。
- ・ Dolakha震源地近くでは余震が継続しており、ヘルスワーカーの安全と防護がそれぞれの郡の地方の村では課題である(WHO, 5/19)。
- ・ クラスタは、ネパール整形病院と軍病院に一時的な病棟として追加の2つを組み立てた。
- ・ 22日までに合計41の海外医療チームが被災地で活動している(WHO, 5/22)。

**ロジスティック**

- ・ アクセスする道がない山間部に住む人への生命維持のための食品、シェルター、医療品の運搬ができない状況である。一旦モンスーンの雨が始めれば、アクセスはさらに制限される。

※ これらの情報は、主にUNOCHAのSituation Reportからまとめています。

**【引用文献】**

**UNOCHA**

United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs and Office of the Resident and Humanitarian Coordinator in Nepal. Nepal: Earthquake 2015 Situation Report

No.17 (as of 21 May 2015)

<http://reliefweb.int/report/nepal/nepal-earthquake-2015-situation-report-no17-21-may-2015>

**World Health Organization SEARO**

WHO Nepal Earthquake Health Update - Situation Report

No. 17: 19 May 2015

<http://www.searo.who.int/entity/emergencies/crises/nepal/who-sitrep17-19-may-2015.pdf?ua=1>

No. 18: 22 May 2015

<http://www.searo.who.int/entity/emergencies/crises/nepal/who-sitrep18-22-may-2015.pdf?ua=1>